

(2017年度)

2 世界史問題 (60分)

(この問題冊子は22ページ，4問である。)

受験についての注意

1. 試験監督者の指示があるまで，問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に，試験監督者から指示があったら，解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し，所定の欄に氏名を記入すること。次に，解答用紙の右側のミシン目にそって，きれいに折り曲げてから，受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し，机上に置くこと。
3. 試験監督者から試験開始の指示があったら，この問題冊子が，上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は，HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能，計算機能，辞書機能やスマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
5. 解答は，解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで，そのマーク欄をぬりつぶすこと。
6. マークをするとき，マーク欄からはみ出したり，白い部分を残したり，文字や番号，○や×をつけたりしてはならない。また，マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
7. 訂正する場合は，消しゴムでいねいに消すこと。消しきらずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり，破ったりしてはならない。
9. 試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

- 1 次の文章(A～C)を読んで以下の問(1～10)に答えなさい。解答は選択肢(a～e)からもっとも適切なものを1つ選び、解答欄にマークしなさい。

A 歴史学研究の重要な課題に時代区分がある。それは、現代に至るまで、われわれがどのような道を歩んできたかを端的に把握する方法である。いままで提出されている時代区分の用語は、原始社会、古代、中世、近世、近代、現代などである。これらは時代像の違いを表そうとしているものの、何を基準として区分するのかがわかりにくい。何らかの基準を示す必要がある。

これとは別に、奴隷制時代、農奴制時代、資本制時代、社会主義時代などの区分がある。これはその時代の生産関係をもとにした時代区分で、基準自体は明確である。抽象的な発展段階論としては相応の有効性を持っている。この時代区分概念を体系的に提起し、後世の歴史に大きな影響を与えたのはドイツの社会主義者であった。その後、この概念を利用して強引に図式化したのがソ連の指導者であった。彼が打ちたてた独裁的権威とそれに基づく革命運動の指導は、世界の歴史学界にも深刻な影響を及ぼした。

問1 下線部(1)の「農奴」の概念とはどのようなものか。次の説明のうち誤っているものを選びなさい。

- a 領主に法律的に隷属している農民である。
- b 家族を持つことは許されていなかった。
- c 家屋・農具を所有することは許されていた。
- d 賦役を果たす義務があった。
- e 領主に死亡税を納めなければならなかった。

問2 下線部(2)の「資本制」に関する次の文章の空欄(ア・イ)に入る語は何か。

歴史的には、農奴制、封建制の段階を克服して(ア)が登場し、工場に労働者を雇用して商品生産をおこなう経済システムが生まれた。彼らは工場・道具などの生産手段を所有し、資本の拡大を追求した。19世紀以降、資本主義シ

システムが成長し、(イ)が登場した。それらは重工業を中心に、市場を支配し、政治にも強い影響力をおよぼすようになった。

- (ア) a 独立自営農民 b 大土地所有者 c 商業資本家
d 独占資本 e 産業資本家
- (イ) a 独占資本 b 産業資本家 c 商業資本家
d プルジョワジー e マニユファクチュア

問3 下線部(3)のドイツの社会主義者とは誰か。また活躍した時代はいつか。もっとも適切な組み合わせを選びなさい。

- a マルクス — 19世紀後半 b オーウェン — 19世紀前半
c プルドン — 19世紀前半 d エンゲルス — 20世紀前半
e フーリエ — 19世紀前半

問4 下線部(4)に関して、(ア)ソ連の指導者とは誰か。(イ)彼に対する批判を始めたのは誰か。

- (ア) a トロツキー b ケレンスキー c スターリン
d ブハーリン e プレジネフ
- (イ) a ゴルバチョフ b フルシチョフ c エリツイン
d ドプチェク e メドヴェージェフ

B 日本の中国史学界では、戦後大きな論争が起こった。中国史をどう時代区分するかという課題をめぐる論争である。そこではおもに二つの学説が提起され、学界を二分する論争となった。これを便宜上 α 学説と β 学説とよび、時代区分をおおまかに図示すれば次のようになる。このうちの α 学説について以下の問(5～7)に答えなさい。

時代	α 学説	β 学説
西周	古代	古代
春秋・戦国		
秦・漢		
三国・魏晋	中世	
南北朝		
隋・唐		
五代十国	近世	中世
宋・元・明		
清	最近世	近代
中華民国		
中華人民共和国		現代

問5 α 学説の古代は、多くの集落から都市国家、そして領土国家ができ、統一帝国が成立、展開した時期であるとする。(ア)この集落は何とよばれていたか。(イ)統一国家成立以前の領土国家を例示した場合、それに含まれないものはどれか。

(ア) a 商 b 周 c 邑 d 夏 e 侯

(イ) a 齊 b 魏 c 趙 d 遼 e 楚

問6 α 学説の中世は、荘園を基礎とする貴族制の時代であるとされる。(ア)貴族が高官となるために利用した官吏登用制度は何か。(イ)上流貴族社会で流行した議論とは何か。

(ア) a 郷拳里選 b 九品中正 c 選挙 d 科挙
e 殿試

(イ) a 清談 b 政論 c 六論 d 唯名論 e 单子論

問7 α 学説の近世とは、ルネサンスを経て庶民の時代となり、君主独裁の財政国家がほぼ完成した時代であるとする。(ア)庶民の上層階級は何とよばれたか。該当しないものを選びなさい。(イ)前半期の財政国家を支えた税制は何か。(ウ)その税制が続いた期間はいつからいつまでか。

(ア) a 読書人 b 士大夫 c 形勢戸 d 胥吏 e 郷紳

(イ) a 租調庸 b 両税法 c 地丁銀 d 一条鞭法
e 人頭税

(ウ) a 8世紀後半～16世紀後半 b 10世紀半ば～17世紀前半
c 10世紀半ば～14世紀後半 d 12世紀前半～17世紀半ば
e 13世紀後半～16世紀後半

C β 学説は、生産関係の変化を基準とする時代区分を提起した。それは中国史を、氏族制時代→奴隸制時代→農奴制時代→資本制時代→社会主義時代という発展段階でとらえ、これをもとに原始社会・古代・中世・近代・現代と区分する立場に立っていた。この β 学説について以下の問(8～10)に答えなさい。

問8 β 学説は奴隸制時代を古代とする。ただ中国で奴隸制が社会の主要な生産関係であったと認めることはできなかった。小農民が圧倒的多数を占めていたからである。そこで専制国家と小農民の間に生産関係を想定する考え方が提起され、これが古代とされた。この場合、国家は小農民を個別に把握しており、具体的政策として土地制度・税制・兵制を実施したと考えるのである。これに関して、(ア)次の用語のうち、この古代の土地制度でないものはどれか。(イ)6世紀に始まった兵制は何か。(ウ)その兵制が廃止されたのはいつか。

(ア) a 班田収受法 b 均田制 c 占田法 d 屯田制
e 課田法

(イ) a 屯田兵制 b 傭兵制 c 府兵制 d 防人制
e 募兵制

(ウ) a 7世紀半ば b 7世紀末 c 8世紀半ば d 8世紀末
e 9世紀半ば

問9 β 学説は農奴制時代を中世とする。宋代から清代の荘園が農奴制によって経営されていたとみるのである。ここで(ア)荘園を所有していた階層は何か。当てはまらないものを選びなさい。(イ)農奴と見なされた荘園労働者は何とよばれていたか。

(ア) a 地主 b 豪農 c 貴族 d 寺院 e 富商

(イ) a 官戸 b 佃戸 c 形勢戸 d 民戸 e 軍戸

問10 α 学説と β 学説の論争は決着がつかず、現在に至っている。このため高校の教科書において時代区分は明確に示されておらず、中国史の時代像はあいまいなままになっているのが現状である。ただ両説が共通して時代の画期と認めているのは唐代から宋代、およびアヘン戦争前後である。これに関して、(ア)唐代から宋代への変化に関する記述のうち誤っているものはどれか。

(イ)アヘン戦争に関する記述のうち誤っているものはどれか。

- (ア) a 貴族の経済的基盤が崩壊して勢力が衰え、それにともなって皇帝の権力が強化された。
- b 唐王朝の支配力は安史の乱を契機にして弱まり、唐は黄巢の乱を契機として滅んだ。
- c 唐代後半期から宋代にかけてウイグル・契丹など周辺民族の活動が活発になった。
- d 宋王朝は五代の後晋の政治を継承しつつ、みずからの支配を確立していった。
- e 宋代前半には王安石が新法とよばれる諸法を發布し、行政改革を断行した。
- (イ) a アヘン戦争の契機となったのは林則徐によるアヘンの取り締まりであった。
- b 林則徐は最初に上海でアヘンの没収をおこない、イギリスの反発を招いた。
- c イギリスは海軍を派遣して、寧波などを攻略したのち南京に迫った。
- d 清の道光帝は戦争の敗北を認め、1842年、南京条約を締結した。
- e 清は南京条約で上海・寧波など5港の開港と香港島の割譲を認めた。

- 2 【A】と【B】の文章を読んで、問1～19に答えなさい。解答は、選択肢(a～d)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。

【A】 ヨーロッパやアフリカから東アジアに至る東西の遠隔地交易は、紀元前からすでに機能していた。インドと西方を結ぶインド洋交易はローマの発展に呼応して盛んであり、1世紀には、南インドのカーンチープラムを介してローマと漢が間接的につながり、2世紀にはローマ皇帝の使者が後漢を訪れた。

遠隔地交易には陸上ルートと海上ルートがあるが、陸上ルートでは、6世紀以降、ソグド人がユーラシアの東西を結ぶ交易ネットワークを構築した。8世紀以後になると、ムスリム商人がこのネットワークに参入した。文学においては、このようなムスリム商人の活躍は『千夜一夜物語』(『アラビアン＝ナイト』)にみとれる。

ムスリム商人は内陸アフリカにも進出し、河川沿いに交易都市が発展した。海域アジアの西の辺境にあたるアフリカ東海岸では、8世紀頃からマリンディ・ザンジバル・キルワなどの港市にムスリム商人が来航した。12世紀には、土着のバントゥー文化とイスラーム文化が融合したスワヒリ文化が生まれた。ムスリム商人の交易圏はさらに南のソファアラ(ソファラ)にのび、ソファアラ(ソファラ)は内陸にあるジンバブエとの交易拠点として栄えた。西アフリカでは、ムスリム商人は、(9)(7世紀頃～13世紀半ば頃)を訪れ、サハラ交易を行った。ムラービト朝の攻撃による(9)の衰退は西アフリカのイスラーム化をうながし、その後におこった諸王国の支配階級はムスリムであった。以上のように、アフリカではイスラームが様々な地域や国に浸透したが、その1つにはカネム＝ボルヌー王国がある。

問1 下線部(1)を首都とし、3～9世紀に、インド南東岸を支配したタミル系王朝はどれか。

- a パツラヴァ朝 b パンディヤ朝 c チョーラ朝
d チャールキヤ朝

問2 下線部(2)に関し、166年、ローマ皇帝の使者が象牙などの南海の産物を持って赴いたと『後漢書』に記述されている中国最南の郡はどこか。

a 交趾郡 b 南海郡 c 日南郡 d 楽浪郡

問3 下線部(2)の使者を送ったとされるローマ皇帝に関し、誤っている記述はどれか。

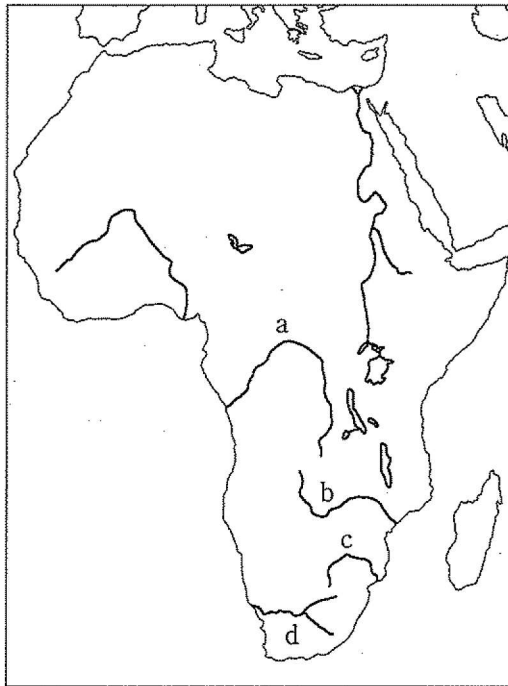
a 五賢帝最後の皇帝である。
b 彼は養子を後継者にした。
c パルティアの侵入に苦しんだ。
d 『自省録』を著した。

問4 下線部(3)に関し、『千夜一夜物語』(『アラビアン＝ナイト』)の主要な舞台の1つであるバグダードを762年に建設したのはだれか。

a ハールーン＝アッラシード b アル＝アッバース
c マンスール d ラシード＝アッディーン

問5 下線部(4)に関し、ザンベジ川は地図1のどの川か。

地図1



問6 下線部(5)は現在どの国にあるか。

- a モザンビーク b ソマリア c ケニア d タンザニア

問7 下線部(6)は現在どの国にあるか。

- a モザンビーク b ソマリア c ケニア d タンザニア

問8 下線部(7)に関し、誤っている記述はどれか。

- a スワヒリ(サワーヒリー)とはアラビア語で「砂漠に住む人々」を意味する。
b スワヒリ文化は、東アフリカで開花した。
c スワヒリ語は、商業上の必要から生まれた。
d スワヒリ文化はインドの文化の影響を受けた。

問9 下線部(8)で栄えた王国はどれか。

- a マタラム王国
- b モノモタパ王国
- c マジャパヒト王国
- d メロエ王国

問10 空欄(9)に入る王国名はどれか。

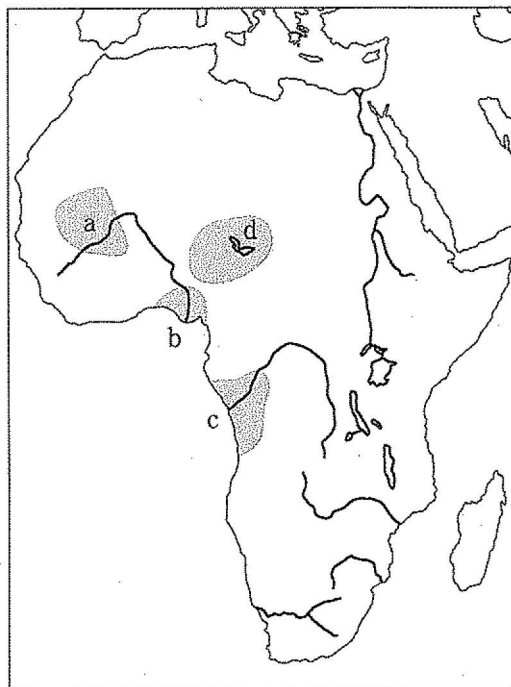
- a マリ王国
- b ソンガイ王国
- c ガーナ王国
- d アクスム王国

問11 下線部(10)の首都はどこか。

- a ラバト
- b マラケシュ
- c フェズ
- d ミクネス

問12 下線部(11)が勢力圏としていたのは、地図2のどこか。

地図2



【B】 イブン=バットゥータは、1325年、メッカ巡礼を志して故郷を出発し、12万kmにおよぶ大旅行を敢行した。帰国後、30年余りにおよぶ彼の経験は、口述筆記による『旅行記』（『三大陸周遊記』）にまとめられた。この旅行記には、14世紀の世界で人とものの交流が活発に行われていたことが示されている。

イブン=バットゥータが訪れた主な都市名・地名

カイロ → ダマスクス → メディナ → メッカ → イスファハーン → メッカ
(1) → アデン → …… → メッカ → イズミル → コンスタンティノープル → サライ → サマルカンド → カーブル → デリー → カリカット
(3) → …… → スマトラ → 泉州 → …… → モロッコにいったん
(5) 帰国 → グラナダ → …… → トンブクトゥ → モロッコへ帰国

問13 イブン=バットゥータが生まれた都市はどこか。

- a タンジール b グラナダ c カイロ d チュニス

問14 イブン=バットゥータが下線部(1)を訪れた際に、(1)を支配していた王朝はどれか。

- a トゥールーン朝 b ファーティマ朝 c マムルーク朝
d アイユーブ朝

問15 イブン=バットゥータが下線部(2)を訪れた際に、(2)を支配していた王朝はどれか。

- a イル=ハン国 b キプチャク=ハン国 c チャガタイ=ハン国
d クリム=ハン国

問16 イブン=バットゥータが下線部(3)を訪れた際に、(3)を支配していた王朝はどれか。

- a イル=ハン国 b キプチャク=ハン国 c チャガタイ=ハン国
d クリム=ハン国

問17 イブン=バットゥータが下線部(4)を訪れた際に、(4)を支配していた王朝はどれか。

- a ハルジー朝
- b ロディー朝
- c トウグルク朝
- d サイイド朝

問18 下線部(4)を首都にしていた下記の王朝のうち、アフガン系の王朝はどれか。

- a ハルジー朝
- b ロディー朝
- c トウグルク朝
- d サイイド朝

問19 イブン=バットゥータが下線部(5)を訪れた際に、(5)で使用されていた貨幣に関し、誤っている記述はどれか。

- a 交鈔は世界最古の紙幣である。
- b 交鈔の乱発は元朝の滅亡の一因になった。
- c 交鈔は納税・俸給・軍事調達に使われたとされる。
- d 交鈔は銀の補助貨幣として使われた。

3 以下の文章を読んで、問(1～3)に答えなさい。

西欧世界では、11世紀頃から商業が復活し、貨幣経済が大きくひろがった。さらに十字軍などをきっかけに遠隔地貿易で栄える都市もあらわれた。地中海世界では、ヴェネツィア、ジェノヴァ、ピサなど北部および中部イタリアの海運都市国家が、東方からおもに(1)などを輸入した。一方、北海、バルト海では^(ア)ブレーメン、^(イ)リューベックなど北ドイツを中心とした諸都市により(2)がさかんに取引された。こうした西欧の商業活動はキエフやノヴゴロドまで及んだ。

北イタリアの諸都市は^(A)ロンバルディア同盟を結成し、また北ドイツの諸都市は^(B)ハンザ同盟を形成するなど、大きな政治勢力となっていた。やがて、(3)のメディチ家や(4)のフッガー家など、政治を動かすほどの大富豪もあらわ

れた。西欧中世都市の多くは、このような商業、さらに手工業を主体として成長した。イタリアのコムーネ(自治都市国家)やドイツの帝国都市(自由都市)などである。

イタリアの強大な自治都市国家の一部は近代まで存続している。ヴェネツィア(5)は、1797年にナポレオンに倒されるまで続いた。ヴェネツィアの隆盛は、第4回十字軍の主導権を握って、コンスタンティノープルを占拠、略奪したことに端を発する。その後、コンスタンティノープルにはラテン(6)がたてられた。一方、ミラノ(7)は、1499年以降は、フランス、スペイン、そしてオーストリアの支配下におかれてしまう。

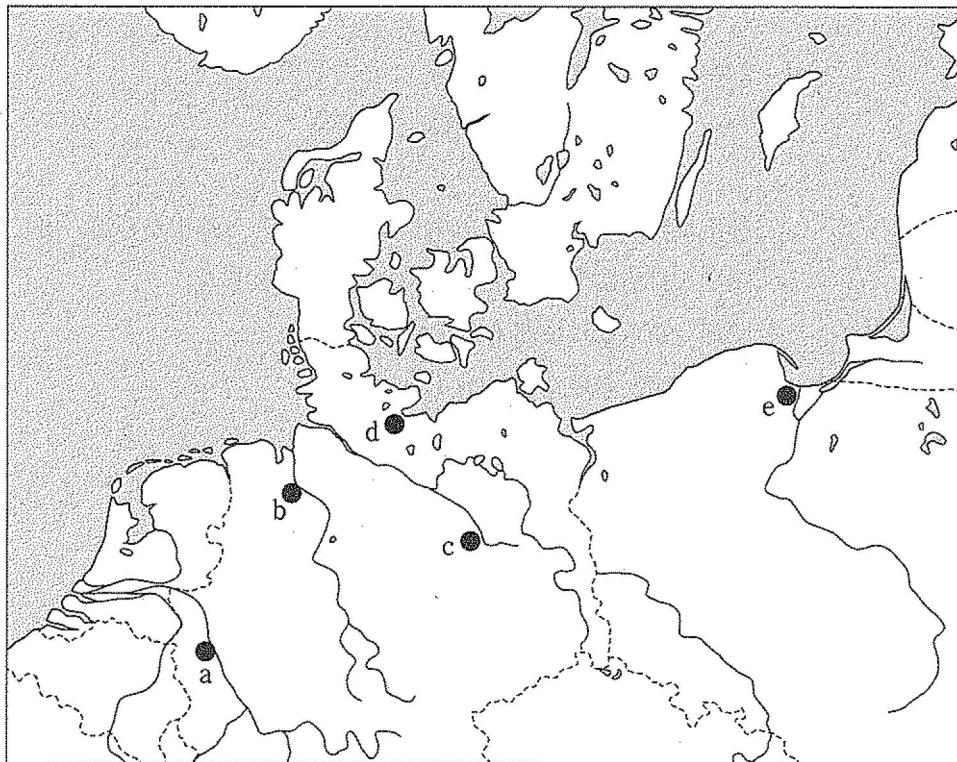
ところで、12世紀から13世紀にかけては学問も発達した。神学が盛んとなり、特に普遍論争はその中心であった。そこでは、普遍は思考の中のみあるとする(8)と、普遍は事物に先立って存在すると主張する(9)が対立していた。こうした論争と、この時代にイスラーム世界からギリシア哲学の古典が逆輸入されたことは、無関係ではない。なかでもトマス＝アキナスは、神の絶対的超越性と(10)の哲学との調和をはかって、『神学大全』を著したことで知られる。同じ頃、大学も教会付属学校などを母体として誕生した。(11)大学は法学で、(12)大学は医学で名高かった。

問1 空欄(1～12)に最も適切なものを選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

- (1) a 香辛料, 絹織物 b 香辛料, 羊毛 c 羊毛, 宝石
d 絹織物, 毛皮 e 毛皮, 香辛料
- (2) a 綿織物, 木材 b 穀物, 綿織物 c 海産物, 胡椒
d 胡椒, 木材 e 海産物, 木材
- (3) a ミラノ b ヴェネツィア c ジェノヴァ d パドヴァ
e フィレンツェ
- (4) a アウクスブルク b フランクフルト c ニュルンベルク
d マインツ e ヴュルツブルク
- (5) a 公国 b 大公国 c 王国 d 帝国 e 共和国
- (6) a 公国 b 大公国 c 王国 d 帝国 e 共和国

- (7) a 公国 b 大公国 c 王国 d 帝国 e 共和国
- (8) a 唯物論 b 唯名論 c 唯心論 d 実存主義
e 実在論
- (9) a 唯物論 b 唯名論 c 唯心論 d 実存主義
e 実在論
- (10) a デモクリトス b ソクラテス c プラトン
d アリストテレス e エピクロス
- (11) a オックスフォード b ケンブリッジ c パリ
d ボローニャ e サレルノ
- (12) a オックスフォード b ケンブリッジ c パリ
d ボローニャ e サレルノ

問2 下線部(ア), (イ)の位置を地図(a～e)から選びなさい。



問3 下線部(A)～(D)に関する文章で間違っているものを選択肢(a～e)から1つ
選びなさい。

- (A) a イタリアに軍事進出してきた神聖ローマ皇帝に対して結成された。
b フリードリヒ1世と2世の進出に対抗した。
c ロンバルディア諸都市は各自の自治権を放棄するとともに、統一国家の樹立をめざした。
d ミラノを中心に形成された。
e 1980年代の、イタリアからの独立を唱える政党の一つはロンバルディア同盟と称した。その後、他の地域政党と連帯して北部同盟となった。
- (B) a 毎年定期的に2回総会をおこなった。
b リューベックを盟主とした諸都市の連合である。
c 北海、バルト海沿岸におけるドイツ商人の利益のために設立された。
d 14世紀にデンマークを破って、さらに栄えた。
e ハンザには「仲間」という意味がある。
- (C) a 都市貴族が中心となって封建領主を打倒し、都市から追い出した。
b 完全な自治による国家体制を確立しようとした。
c 北部、ならびに中部イタリアで成立した。
d 12世紀頃から成立していった。
e 支配権は市壁の内部だけに限定された。

- (D) a 諸侯の支配から逃れるために、皇帝直属となった。
b 諸侯の強大化を恐れた皇帝から特許状を獲得して自治権を得た。
c 所領の農奴が自由都市へ逃亡するなど、諸侯にとっては望ましくない存在であった。
d 皇帝の特許状では裁判権などが認められた。
e その地位は特許状においては諸侯よりも低く、軍役の義務があった。

4 次の文章(I～III)を読んで、問(1～17)に答えなさい。問1と問15の解答は、選択肢(a～h)から適するものをすべて選び、その他の問の解答は、選択肢(a～d)からもっとも適切なものを1つ選びなさい。

(I) 17世紀初頭から進んだ新大陸へのイギリス人の移住により、ヴァージニア植民地やニューイングランド植民地が成立し、18世紀前半までには13の植民地^(ア)が形成されていた。これらの植民地は自治権を認められ、植民地議会を通して市民の政治参加が進んだ。

しかしイギリスは本国の商工業を保護するために植民地に各種の制約を課し、また七年戦争^(イ)による財政の逼迫を植民地への課税で補おうとした。このことが植民地側の反発をよぶなか、1765年の(1)に対して「代表なくして課税なし」との主張が唱えられ、ボストン茶会事件を機に対立が先鋭化した。1774年には植民地代表が(2)で大陸会議を開催して自治の尊重を要求し、1775年に(3)と(4)での武力衝突を機に独立戦争が始まった。独立軍は当初苦戦したが、有利な国際環境^(ウ)にも助けられて植民地側優勢となり、1781年の(5)の戦いに敗れたイギリスは、アメリカ合衆国の独立を認めた。

その後イギリスがナポレオン治下のフランスと戦争状態になると、アメリカ合衆国は中立を維持していたが、イギリスが海上封鎖でアメリカの通商を妨害したことから、1812年再びアメリカとイギリスの戦争に発展した^(エ)。この戦争では州をこえたアメリカ人としての自覚がさらに高まったため、第二次独立戦争ともよばれる。

問1 下線部(ア)の13植民地にあたるものをすべて選びなさい。

- a ジョージア b メリーランド c オハイオ d デラウェア
- e ケンタッキー f フロリダ g ニューヨーク
- h サウスカロライナ

問2 下線部(イ)の戦争に関する記述として誤っているものを1つ選びなさい。

- a オーストリアとプロイセンの領有権争いに、それぞれフランスとイギリスが加担して始まったが、北アメリカでも植民地戦争を展開した。
- b 北アメリカではフランスと先住民が連合してイギリスと戦ったため、フレンチ=インディアン戦争と呼ばれる。
- c イギリスが勝利し、ニューファンドランドとハドソン湾岸地域を獲得した。
- d この戦争の後にイギリス国王は、植民地人の居住地域をアパラチア山脈以東に限定する命令を出した。

問3 空欄(1)に入る法律はどれか。

- a 砂糖法 b 印紙法 c タウンゼント諸法 d 茶法

問4 空欄(2)～(5)の順に入る地名の組み合わせで正しいものはどれか。

- a フィラデルフィア — レキシントン — コンコード — サラトガ
- b レキシントン — フィラデルフィア — サラトガ — ヨークタウン
- c フィラデルフィア — レキシントン — コンコード — ヨークタウン
- d レキシントン — フィラデルフィア — ヨークタウン — サラトガ

問5 下線部(ウ)に関する記述として誤っているものを1つ選びなさい。

- a フランスの提唱でヨーロッパ諸国が武装中立同盟を結び、イギリスの海上封鎖に対抗した。
- b フランスは1778年に植民地側に立って参戦した。
- c スペインは1779年にフランスに協力して参戦し、イギリス領ジブラルタルを攻撃した。
- d フランスのラ=ファイエット、サン=シモン、ポーランドのコシューシコなど各国から義勇兵が参加した。

問6 下線部(エ)に関する記述として正しいものを1つ選びなさい。

- a アメリカが勝利を収め、イギリス領カナダの一部を獲得した。
- b モンロー教書(宣言)がこの戦争の最中に発表された。
- c 貿易が中断した結果、アメリカ国内の工業化が進んだ。
- d 戦争による工業化の進展を背景に、アメリカは自由貿易主義に転じた。

(II) アメリカ合衆国は独立したものの、13州の緩やかな連合にすぎなかった。

(6)年に成立したアメリカ合衆国憲法は、大統領・連邦議会・最高裁判所の三権分立を定めるとともに、各州に大幅な自治を認めながらも、中央政府の権限を強化した連邦制を採用した。この憲法をめぐる連邦派と反連邦派の対立は、やがて政党間競争の形をとるようになる。

19世紀を通じてアメリカ合衆国は西に拡大していくが、西部出身の大統領(7)は、選挙権の財産制限を撤廃し、すべての白人男性に選挙権を与える改革によって民主政治の基盤を拡大した。この時期連邦派は北部の企業家などを支持基盤とするホイッグ党に発展していたが、これに対抗して(7)支持者は西部の小農民や南部の大農園主らを支持基盤とする民主党を結成し、二大政党制の基礎が形成された。しかし一方(7)は、先住民に対して(8)以西への移住を強制するなど苛酷な政策をとった。

問7 空欄(6)に入る年はどれか。

- a 1776 b 1778 c 1783 d 1787

問8 下線部(オ)のアメリカ合衆国大統領に関する説明で誤っているものを1つ選びなさい。

- a ワシントンが初代大統領となった。
b 任期は4年で、3期以上務められないことが制定時の憲法で規定された。
c 国家元首かつ中央政府の長で、陸海軍最高司令官も兼ねる。
d 連邦議会とは別に選ばれるため、大統領と連邦議会多数派の政党が異なる場合がある。

問9 下線部(カ)に関して、ワシントン大統領の財務長官を務めた連邦派の指導者は誰か。

- a マディソン b ジェファーソン c ジョン=アダムス
d ハミルトン

問10 下線部(キ)に関する以下の出来事を年代の古い順に並べた場合、正しい組み合わせはどれか。

- a フロリダ買収 — テキサス併合 — ルイジアナ買収
b ルイジアナ買収 — フロリダ買収 — テキサス併合
c ルイジアナ買収 — テキサス併合 — フロリダ買収
d フロリダ買収 — ルイジアナ買収 — テキサス併合

問11 空欄(7)に入る大統領は誰か。

- a マディソン b モンロー c ジャクソン d ポーク

問12 空欄(8)に入る適切な言葉はどれか。

- a アパラチア山脈
- b オハイオ川
- c ロッキー山脈
- d ミシシッピ川

(Ⅲ) アメリカで独立の機運が高まったのと同じ時期、ラテンアメリカでも課税の強化などスペインの植民地政策への不満がクリオーリョを中心に高まっていた。ナポレオンのスペイン本国侵略を機に独立運動が本格化し、1810年代から20年代にかけて多くの国が独立を果たした。

独立後の国家制度は大統領制や連邦制を採用した点でアメリカ合衆国の影響が強い。しかし特権層による支配構造や中央集権的伝統が色濃く残るラテンアメリカ諸国では、植民地議会を通して自治を実践したアメリカ合衆国のような市民層は育っていなかった。独立後は各国で保守派と自由主義派の2大勢力が形成されたが、支配層内の勢力争いとしての性格が強く、独裁と反乱が繰り返されるなか、議会政治を担うような近代的政党は生まれなかった。この地で議会制民主主義が根を下ろすのは遠く20世紀終盤のことである。

問13 下線部(ク)に関して、この時期のスペインの王朝はどれか。

- a ブルボン朝
- b ヴァロア朝
- c ハプスブルク朝
- d カペー朝

問14 下線部(ケ)の説明として正しいものを1つ選びなさい。

- a 白人と先住民の混血
- b 植民地生まれの白人
- c 生活様式がスペイン化した先住民
- d 本国生まれの白人

問15 下線部(コ)の時期に独立を果たした国をすべて選びなさい。

- a ブラジル
- b ボリビア
- c アルゼンチン
- d ハイチ
- e キューバ
- f チリ
- g パラグアイ
- h ドミニカ

問16 下線部(サ)に関して、メキシコの自由主義派の指導者で同国初の先住民出身の大統領となったのは誰か。

- a フアレス
- b トゥサン＝ルヴェルチュール
- c イダルゴ
- d モレロス

問17 下線部(シ)に関して、メキシコで1870年代半ばから30数年にわたって敷かれた独裁体制に関する記述で誤っているものを1つ選びなさい。

- a 武力で政権を奪取したディアスは、反対派を弾圧し、名目上の再選を繰り返しながら長期政権を維持した。
- b 外国資本の導入によりメキシコは急速な経済発展を遂げたが、主要産業は外国資本に支配され、農民や労働者は劣悪な労働環境のもとに置かれた。
- c ディアス大統領の再選反対を掲げるカランサが1910年に武装蜂起を呼びかけた。
- d 武装蜂起のよびかけを受けて、農民指導者のサパタが反乱を起こした。